

COMMUNICATION PAPER
日本地下水開発株式会社情報誌
No.172 September
2024



地下水
版
KAWARABAN

ATES Study Visit 2024 in Netherlands



2024年9月7日(土)～15日(日)までの9日間、オランダにおいて在大阪オランダ王国総領事館とオランダ王国企業局主催による帯水層蓄熱(ATES)視察プログラムが企画され、桂木社長、企画開発部・高橋龍星主任が参加しました。



日本地下水開発

NOW

CONTENTS

表紙.....	1
JGD NEWS	2
ここでごんばっています。	22
太陽光発電状況	22

Microsoft365の導入について

DX プロジェクトリーダー 長岡 豊

JGDグループでは社内におけるDXを推進するため、4月からMicrosoft 365 (Ms365) を導入しました。Ms365は、オフィスアプリやクラウドサービス、情報セキュリティをまとめたサブスクリプションサービスであり、Word、Excel、PowerPointといった基本的なアプリの他、Outlook、Teams、SharePoint、OneDriveなどのオンライン会議からスケジュール管理、資料の共有が可能な様々なサービスが利用できます。業務に必要なソフトのほとんどがMs365で完結するため、生産性の向上や業務効率化につながるもの

と考えています。また、プランに応じたセキュリティ機能が備わっていることから、リモートワークでも社内でも、安全な環境で業務を進めることができます。

JGDグループとしては、これまで利用してきたKnowledge Suiteの各種機能をMs365に移行することを決定しており、Knowledge Suiteの【メッセージ】【掲示板】の機能をTeamsの【チャット】【チーム】に移行するとともに、Knowledge Suiteの【スケジュール】【施設予約】の機能をOutlookの【予定表】に置き換える作業が進められていますが、グループ内には、ITを使

ナレッジスイートからMicrosoft365への移行



【Outlook】

多機能なメールソフトで、ビジネスで利用されるメールの送受信だけではなく、スケジュールやタスクの管理、ExcelやWordとの連携もできます。また、自分以外のチームメンバーのスケジュール管理をしたり、タスク管理としてリマインド設定したり、グループウェアとしても活用できます。Teamsと連携が可能で、Teamsで設定した会議内容のメール通知やスケジュール追加も簡単です。

スケジュール(設備予約)の移行と個人予定管理

Knowledge Suite

【スケジュール(設備予約)】

本社に関する主要スケジュールの管理
応接室、会議室等の設備予約管理



Microsoft 365



【Outlook_予定表】

JGD_scheduleの共有
応接室・会議室の共有

新たに【個人予定管理】

会議、会合、打合せ予定等
その他出張予定や休暇予定...

いこなせる社員（主に若手）と、ITを使いこなそうと思ってもなかなか使い勝手がわからない社員（主にベテラン）が混在していることから、社員全員のITリテラシーを平準化するため、全ての社員にMs365の機能を使っていただく必要があります。そこで6月29日(土)、Ms365の使い方に関する第1回勉強会をTeamsを利用したWEB会議で開催し、佐藤敦購買部長がTeamsの使い方について、公平隆之工事ががOutlookの使い方について説明しました。勉強会で使

用した資料はTeamsの【チーム】内に掲示していますので、社員の皆さんにおかれまして再確認をお願いします。

DXプロジェクトでは、今後も定期的に勉強会を開催し、社内におけるDX推進を図ってまいります。Ms365の使用方法に関する意見、疑問点等ございましたら、お近くのDXプロジェクトメンバーにお声がけください。

DXプロジェクトメンバー

長 岡 豊	リーダー（常務取締役 総務本部長）
佐 藤 敦	コーディネーター（取締役 総務本部 購買部 部長）
姉 崎 仁	コーディネーター（営業本部 監理部 部長）
志 鎌 秀 紀	コーディネーター（JWD 資材部 担当部長）
鈴 木 英 生	コーディネーター（総務本部 総務部 補佐）
山 口 正 敏	技術本部 設計部 次長
志 田 真 一	総務本部 経理部 補佐
三 橋 寛	営業本部 営業部 主任
高 橋 龍 星	営業本部 企画開発部 主任
公 平 隆 之	事業本部 工事部 工事長
今 野 佳 代 子	JESC 取締役 管理営業部 部長

追記：DX推進の一環として行ってきた本社インフラ整備（ネットワーク）の再構築は8月31日(土)に切替作業が終わりました。既存の機器もまだ残っていますが、今後整理していきますのでご承知置き下さい。

◎Teamsの各機能イメージ

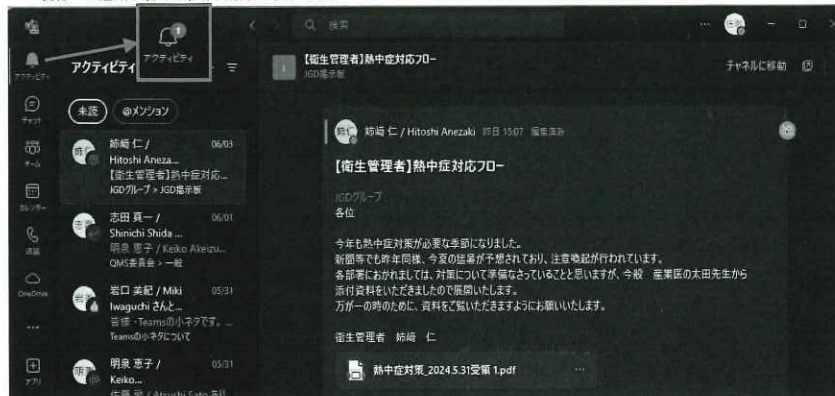
2024/6/29
DXプロジェクト

○Teamsの機能

Knowledge Suiteのメッセージや掲示板の代替として使用
Knowledge Suiteとの主な違いは、Web会議やビデオ通話ができること

☆アクティビティ

・自分への通知が届くと、赤丸数字が表示される



JGD福島営業所の社屋新築工事について

福島営業所 高橋正浩

現在、JGD福島営業所の新社屋を建設中です。

今年の6月18日(火)に起工式を執り行い、7月2日(火)に着工し、9月12日(木)現在で鉄骨の組立が終わり、外壁の取付工事を進めております。11月には建物が完成し、新社屋の使用が開始されます。

これまで使用してきた既存社屋は、1989年に建設され、以来35年が経過しておりました。

既存社屋は、軽量鉄骨造(平屋)・延べ床面積166m²ですが、現在建設中の新社屋は、軽量鉄骨造(2階建て)・延べ床面積482m²となり、大幅に業務スペースが拡大されます。これにより、常時25名の社員が十分なスペースで業務を遂行できる様になり、今後の受注拡大へ向けて更に環境が整います。

新社屋には、業務スペースの他に、応接室・男女更衣室・書庫、そして60インチの大型ディスプレイを備えた多目的ルームも整備され、多目的ルームは社内勉強会や所内会議、社員同士のコミュニケーションの場として活用されます。

また建物の仕様は、ZEB Ready(省エネ50%以上)

となっており、快適な室内環境を実現しながら、建物で消費するエネルギーを大幅に削減することができます。省エネ50%以上達成のために、自噴井を利用した地下水熱空調システムや全熱交換器(熱ロスのない換気設備)の採用、そして建物の断熱強化やLED照明などが採用されております。

この様に、新たな業務環境をいただく福島営業所は、全所員一丸となり更に飛躍できるよう力を尽くして参ります。



起工式



完成イメージパース



工事の進捗 (9月12日現在)

第27回 ヒヤリハット体験発表会にて

事業本部 工務部 奥山 淳

7月1日(月)、本社大会議室において、第27回ヒヤリハット体験発表会を開催しました。

今回は、会場参加者89名、Web参加者27名、合計116名参加のもと、JGDグループ各部所より10名が選抜され、各自思い思いの体験発表を行いました。

改めてヒヤリハットとは何か？

ヒヤリハットとは、重大な災害や事故に直結する、一歩手前の出来事を意味します。

思いがけない出来事に「ヒヤリ」としたり、事故直前のミスに「ハッ」としたりする事が名前の由来であります。

これを理解する上で重要となるのは、【ハインリッヒの法則】と言われるものです。

ハインリッヒの法則とは、1件の重大事故の背景には29件の軽微な事故があり、更にその背景には300

件の異常が存在すると言うもので、この300件の異常こそが「ヒヤリハット」なのです。

しかし、ここで勘違いしていけないのは、「怪我が無くて良かったね」ではなく、ヒヤリハットした時点でそれは、無傷事故であるという認識です。

私たちが置かれている建設業は、常にヒヤリハットと背中合わせの世界です。

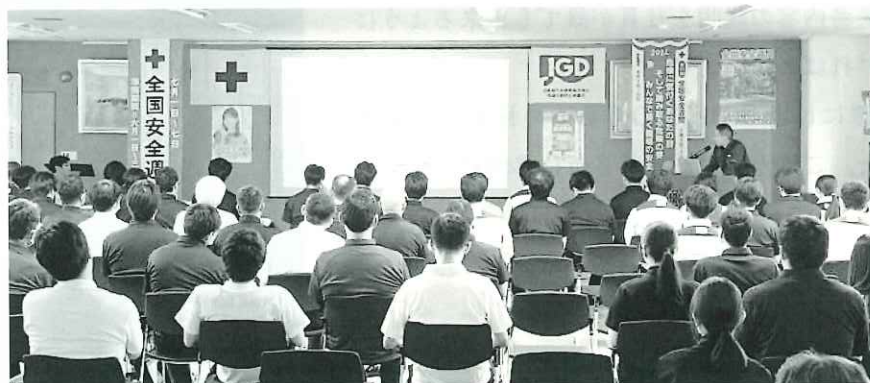
あらゆる所に危険が潜み、その危険を如何に排除し安全に結び付けていくかに尽きるのではないのでしょうか。

この体験発表会の内容を、決して他人事で済まらず、自分の身に置き換える事で、更なる無事故・無災害に結び付けて行って欲しいと思います。

【小さな気付き、大きな安心】この言葉を合言葉に、JGDグループ社員一同、突き進んで行きましょう。



発表会の様子



発表会の様子2

地下水循環型地中採放熱システム工法協会による JESC-ZEB棟の視察

営業本部 企画開発部 黒 沼 覚

8月26日(月)、信州大学工学部の高村教授が会長を務め、長野県内の企業を中心に構成されている『地下水循環型地中採放熱システム工法協会』の10名がJGDを訪れ、JESC-ZEB棟およびJESC検査棟、JWDの放熱管製造ラインとストレーナ製造工程を見学頂きましたので報告致します。

はじめにJGD本社3F中会議室において桂木社長よりご挨拶を頂き、その後山谷部長から当社の事業概要、克雪事業、帯水層蓄熱、JESC-ZEB棟での取組みについて、スライドや動画を用いた説明がありました。

JESC-ZEB棟の説明は企画開発部、分析業務はJESC分析グループ、放熱管製造ラインとストレーナ製造はJWD製造部が、それぞれ分担して説明を行いました。説明時には活発な質疑もあり、非常に充実した見学会であったと高評価を頂きました。

長野県では地下水が豊富なものの、地下水の還元が難しいことやスケールによる目詰まりなどメンテナンスの面から、お客様には地中熱利用としてクローズドループのみを提案しており、地下水熱の利用は薦めていないのが現状とのことですが、今回視察した事で、地下水熱利用の認識が変わり、今後は地下水熱利用を長野県でも積極的に進めていきたいとのコメントを頂きました。またJESC検査棟やJWD製造工程の見学内容だけでなく、丁寧な説明、整理整頓された施設に対して非常に高い評価を頂くことができました。今後は対外的に業務内容の説明を社員が誰でも出来るようになっていければと思います。

視察の際にはJESCやJWDの多くの社員にご協力頂きました。ご協力頂いた社員各位に感謝致します。



山谷部長プレゼンの様子



JESC-ZEB棟視察の様子



放熱管製造ライン説明の様子

『緑友会定期総会』 講演会聴講の報告

技術本部 設計部 川 井 陸

9月3日(火)、山形グランドホテルで開催された『緑友会定期総会』の講演を聴講してまいりました。

この講演会は株式会社塚田会計事務所が主催するものであり、今年が47回目の開催となりました。

はじめに桂木社長が『2050カーボンニュートラルの実現に向けて私たちは何ができるのか?』と題して講演されたのち、山形銀行代表取締役会長の長谷川吉茂氏が『少子化及び人口減は深刻な問題』と題して講演されました。

主催者による講演前の挨拶にて、「冬場に県外から来られたお客様から、山形市内の歩道で雪が消えていることに驚かれます」との言葉がありました。業務に携わる中で、当社が施工・維持管理を行っている地下水利用の無散水消雪施設が、雪国、特に本社の位置する山形県の発展に寄与していることは幾度となく学んできました。しかしながら、改めて当社の技術が人の役に立っている声を聞き、誇りに思うとともに県民から期待されているのだと感じました。

両講演に共通して、気候変動や社会問題は個人レベルの努力では改善に限度がある、という内容がありました。しかし、桂木社長の講演の中の「黄金の3割」理論によれば、マイノリティであっても一定数割合が行動することで変化を起こすことができるということです。当社は、再生可能熱エネルギーのさらなる利活用の分野で変化をもたらすことができる立場にあり、その一員として行動を起こす社会的責任があることを改めて自覚する機会となりました。

今回の聴講で得たものを活かし、知識と技術と経験を持つ企業の一員として今後も業務に邁進し、当社のみならず社会に貢献できるよう努めてまいります。

技術本部 設計部 石 塚 悠 月

9月3日(火)、山形グランドホテルで開催された「緑友会定期総会」の講演会に参加して参りました。本講演は、株式会社塚田会計事務所が主催するものであり、今年で47回目の開催となりました。

まず初めに桂木社長が「2050カーボンニュートラルの実現に向けて私たちは何ができるのか?」と題し、JGDの技術や実績、2050カーボンニュートラル実現に向けた取り組みについて講演を行いました。

続いて山形銀行代表取締役会長の長谷川吉茂氏が「少子化及び人口減少は深刻な問題」と題し、日本経済が直面している問題や少子化による人口減少の問題について講演を行いました。

今回の講演では、環境問題や少子高齢化、地方経済の弱体化といった現在私たちが直面している課題が多く見えました。それと同時に、どのような行動をすべきか考えさせられる良い機会となりました。また、講演会の中で「県外から訪れた人が山形の道路を見ると、一面雪景色の中で歩道の雪だけが綺麗に消えている光景を見て驚かれる」というお話もあり、当社の消融雪技術が人々の生活に役立っていることを改めて実感したとともに、再生可能エネルギーである地中熱を利用した技術で、地域を支えられる立場にあることを自覚することができました。

今回の講演会で得たものを活かし、JGDグループの一員である誇りと自覚を持って、今後の業務に励んで参りたいと思います。



桂木社長による講演の様子

環会 2024年 臨時総会 開催

環会事務局 土屋 仁

9月3日(火)～6日(金)にかけて、島根県隠岐の島町にて「環会 2024年 臨時総会」が開催されました。臨時総会には、環会会員企業20社21名、JGDグループ社員5名の計26名が出席しました。

佐藤武幸会長（有限会社旭屋設備代表取締役社長）の挨拶に続き、母体会社を代表して桂木宣均会長の挨拶が行われました。その後、新入会員企業として株式会社アーキテクチュアランドスケープ、オヤマダエンジニアリング株式会社、山新建装株式会社の3社が紹介され、これにより環会会員企業は102社となりました。

続いて、事務局から令和6年の事業経過報告があり、全会一致で承認されました。また、総会の合間には隠岐の島、倉敷、姫路、関西方面の歴史探訪も行われました。



【隠岐の島町】ローソク島



【隠岐の島町】玉若酢命神社_八百杉

1日目の9月3日(火)は、隠岐の島町を訪問しました。ローソク島の息をのむような絶景に感銘を受け、自然の力強さと岩肌に刻まれた歴史が調和した風景に深い感動を覚えました。昼食は『煉瓦屋』にて、年間約

1,200頭のうち市場に出回るのはい割ほどという「幻の黒毛和牛」と称される隠岐牛を堪能し、その柔らかさと豊かな風味に感動しました。夕食では『八百杉』で新鮮な海鮮料理を楽しみ、隠岐の自然と食文化を満喫しました。



【隠岐の島町】隠岐国分寺

2日目の9月4日(水)は、岡山県倉敷市の美観地区を散策しました。情緒あふれる風景や歴史的建造物に触れ、まるで時間が止まったかのような雰囲気を楽しみました。大原美術館では、圧倒的な芸術作品に心を打たれました。晚餐は古民家バル『旧本藤邸』で行われました。斎長物産株式会社仙台営業所長の浅川達也様よりご挨拶を頂いた後、9種類の前菜、チキン香草焼き、ピザ、ワインを堪能しました。古民家の趣と料理、そしてワインとの相性を楽しみながら、素晴らしい夜を過ごしました。



【倉敷市】大原美術館



【赤穂市】大石神社

3日目の9月5日(木)は、兵庫県赤穂市の大石神社を見学し、赤穂浪士の歴史に触れました。午後には世界文化遺産の姫路城を訪れ、その壮大さと歴史的価値に圧倒され、日本の誇りを再確認しました。昼食は赤穂ロイヤルホテルでの鱧料理を堪能し、夕食は『矢沢永吉』のBGMが流れる神戸牛焼肉店『八坐和』で最高級A5ランクの神戸牛を味わいました。夕食の前には住商メタルワン鋼管株式会社東北商事チーム主任の渡部雄希様よりご挨拶を頂きました。

最終日の9月6日(金)は、仁徳天皇陵を含む世界遺産百舌鳥古墳群を訪れ、歴史の重みと自然との調和を体感しました。堺市役所の最上階からは、古墳群の壮大な眺めを楽しむことができ、その数と規模に驚かさ



【姫路市】姫路城

れました。続いて全国に2,300社を擁する住吉神社の総本社である住吉大社を訪れました。象徴的な反橋(太鼓橋)や数々の文化財、樹齢1,000年を超える御神木など、悠久の歴史を感じる神社でした。昼食は通天閣で地元名物の串カツを楽しみました。午後は大阪市の四天王寺を訪れ、日本の伝統と信仰を静かに感じつつ、全行程を終え帰路に就きました。多くの素晴らしい経験を重ね、心に深く刻まれる思い出となりました。

皆様のご協力のおかげで、無事に臨時総会を終えることができました。コロナの影響が続く中での開催にあたり、心より感謝申し上げます。

次回は海外での開催を予定しており、多くの皆様のご参加をお待ちしております。



【大阪市】住吉大社_反橋(太鼓橋)



【大阪市】住吉神社

ATES Study Visit 2024 オランダ王国 出張報告

営業本部 企画開発部 高橋 龍星



写真1 集合写真 (ASR本社前にて)



写真2 ASR社 本社屋

9月7日(土)～15日(日)までの9日間、在大阪オランダ王国総領事館とオランダ王国企業局主催で開催された「ATES Study Visit 2024」に桂木社長に同行して参加して参りました。

オランダは国内で3,000件以上のATES(帯水層蓄熱)導入実績があり、最もATESの普及が進んでいる国です。今回のプログラムではATES施設の現地視察をはじめ、関係省庁や研究機関、関係業者によるプレゼンテーションや意見交換の場が設けられました。

5日間のプログラムでしたが、朝から晩までみっちりスケジュールが組まれており、たくさんの施設を見学することができました。

JGDグループが取り組んできた密閉式井戸の作りこみや、ATESシステムの運用の考え方が間違っていないということを確認できる内容でした。

私自身はATESに関してまだまだ知識不足だったので、今回の出張を通して理解を深めることができよかったですと思っています。今後のNEDO事業で取り組んでいく「帯水層蓄熱を中心とした面的熱利用によるZEB及びZEH-Mの運用に関わる技術開発」においても参考



写真3 集合写真 (コンラッド社にて)

になる視察内容だったと思います。

また、改めて英語の勉強の必要性を感じました。視察時は通訳の方がついてくれましたが、通訳者にATESや井戸に関する専門知識があるわけではないので、適切な翻訳がされないことも多々ありました。英語論文にも触れて専門用語が分かるよう努めたいです。

最後に、今回の出張を通じて大学の先生やNEDOの方、ATESに取り組む他企業の方など多くの方と交流することができました。この繋がりと今回の経験を今後の業務に活かし、いっそう頑張っていきたいと思っています。

JESC-ZEB棟の視察状況について

営業本部 企画開発部 山谷 睦

2021年7月7日にJESC-ZEB棟の完成披露を行ってから、2024年8月26日までの視察者を一覧表に示しました。3年余りの期間で通算の視察者数は、87団体、453名に達しています。視察に来られた方々は、国会議員、県議会議員、大学の先生、国・県・市町村の職員、各種企業の社員など、きわめて多岐にわたっています。

高効率帯水層蓄熱システムをこれから建築する建物に導入できないか、既存の工場に導入できないかなど、具体的な計画を進める途中で視察にこられた方々も多くみられました。また最近では、政府の2050カーボンニュートラル宣言を受けて、巨大企業グループの中で省エネルギー化による二酸化炭素排出量削減を担当している会社が視察にくる例も出てきています。巨大企業グループでは、全国に保有する関連会社や工場での二酸化炭素排出量削減目標を掲げており、どうやってそれを実現するか具体的に考えている企業が多くなっていることを裏付けています。トヨタグループに

属する豊通マシナリー一行による視察状況の画像を示しました。

視察者の中には、高効率帯水層蓄熱システムの導入について具体的な問い合わせを頂いた方も多くいます。関東平野のように厳しい地下水規制のため井戸設置が困難なエリアが導入候補地であることも間々ありますが、地質図やボーリング・データベースの情報などを基にして、なるべく丁寧に答えるようにしています。

今後も、多くの視察者を受け入れて、高効率帯水層蓄熱システムのZEBへの親和性と、省エネルギー効果、二酸化炭素排出量削減効果をアピールしていきます。JESC-ZEB棟では、本年3月にNEDO助成事業が完了した後も詳細な稼働観測データを継続的に集積していますので、科学的根拠に基づいた確かな情報を提供していきたいと思えます。

JGDグループ社員の皆様には、引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。



豊通マシナリー(トヨタグループ)による視察状況

インターンシップ感想文

9月2日(月)～6日(金)にかけて
インターンシップに参加した学生の感想を紹介します。

東北大学 環境科学研究科
先進社会環境学専攻
修士1年 金子 寛仁

この度は、貴社のインターンシップに参加させていただき、誠にありがとうございました。地元山形で活躍されている皆様にお会いできたことは、私にとって大変刺激的で有意義な体験となりました。特に、山形特有の湿った重たい雪には幼い頃から悩まされており、学生時代は冬の登下校がとても大変だったことをよく覚えています。未来を担う子供たちのためにも、ぜひ私の住んでいる飯塚町にも消雪設備を導入していただけると嬉しく思います。

さて、今回のインターンシップでは、工事部、資源開発部、環境調査部の3部門を訪問し、さらにJWDおよびJESCの施設見学をさせていただきました。各部門の職員の皆様には、業務の合間にもかかわらず、資料作成や質問対応など多大なご協力をいただき、心より感謝申し上げます。おかげさまで、各部署の業務内容を具体的に理解することができ、非常に貴重な経

験を積むことができました。

特に印象的だったのは、ソニックドリルの見学です。従来の地下掘削には大規模な設備が必要だと思っていましたが、この装置はコンパクトで限られたスペースでも掘削が可能なおことに驚かされました。また、掘進率も従来のロータリー式と比較して倍近くになることで、使用目的が異なるものの、非常に優れた技術だと感じました。さらに、ソニックドリルの販売元との共同研究開発も進んでいると伺い、今後の技術進展に大いに期待を寄せています。

加えて、今回のインターンシップを通して、業務を進める上での基本姿勢や心構えも学ぶことができました。「仕事は信頼関係が基本であること」、「分からないことは勇気を持って尋ねること」、「効率的に業務を進めるための工夫をすること」といった社員の皆様からの教えは、私にとって大変貴重なものでした。

最後に、今回の経験を今後の研究や就職活動に生かし、社会人として皆様のように信頼される存在を目指して努力してまいります。改めまして、5日間にわたる貴重なご指導、誠にありがとうございました。



インターンシップの様子

山形県豪雨災害義援金贈呈

常務取締役 長岡 豊

令和6年7月25日(木)から26日(金)にかけて、庄内・最上地域を中心に記録的な大雨に見舞われ、河川の氾濫や土砂崩れなど各地で甚大な被害が発生しました。

この度の豪雨災害に際し、当社は8月2日(金)山形メディアタワーにおいて、山新放送愛の事業団の寒河江浩二理事長に100万円の義援金を寄託しました。

豪雨災害で被災された方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧と復興をお祈りいたします。

山形の日本地下水開発 100万円を寄せる



桂木聖彦社長（中央）と長岡豊常務＝山形市・山形メディアタワー
（撮影・関賢一郎）

日本地下水開発（山形市）は100万円を寄託した。桂木聖彦社長、長岡豊常務が同市の山形メディアタワーを訪れ、事業団理事長の寒河江浩二（山形新聞会長・主筆）（山形新聞グループ経営会議議長）に手渡した。桂木社長は「身につまされる被害が出ており、私たちにまずできることが義援金だと考えた。ぜひ役立てほしい」と述べた。（稲村裕介）

山形新聞 2024年8月3日

ここががんばっています。

「信用から信頼へ」

日本地下水開発(株)営業本部営業部 佐藤 幹夫

① 昭和44年(1969年)生まれ・山形県山形市

② 麗澤大学 外国語学部 中国語学科卒
平成13年(2001年)入社
営業部一筋です

③ 妻、長女、長男の4人家族
(今年春から妻と2人暮らしです)

④ 朝ドラ鑑賞(就寝前に録画した朝ドラを見る
15分間が癒しの時間です)、ゴルフを少々

⑤ a 「信用から信頼へ」
社会人1年目の時の上司に言われた言葉
です。

「信用」は「人から用いられる」と書く、「信頼」は「人から頼られる」と書く。人に用いられる・使われる立場から、人に頼られるようになれば、仕事は「やらされている」から「やりがいがある」に変わる、と言われた事が忘れられません。

形や数字に表されるものではありませんが、健康に留意しながら、その域に達していると思えるよう努めていきたいです。

b A病院温泉パイプ敷設工事(工事内容:発注者である民間病院が、廃業した温泉旅館の温泉水を病院に引き込むため750mの官地区間に温泉パイプを敷設した)。

旧温泉旅館と病院の間には、国、県、市、

土地改良区がそれぞれ管理する道路・土地があり、各管理者から承認を得るために奔走しました。特に国からは「民間事業のために国道を開削しパイプを敷設する事は認められない」と指導されました。社内検討した結果、所有しているアメリカ製DD25/50水平坑井掘削機を使用し国道を開削



せず施工する事で承認を得ました。そして国の担当者が見学に来る中施工した結果、1日間で無事に国道下を横断掘削(L=約50m)し温泉パイプを通す事に成功しました。その時は大変感動した事を憶えています。その後工事は順調に進み全750m区間のパイプ敷設が完了、温泉水が無事に病院に配湯され客先から大変喜んで頂いた事は今でも印象深い思い出です。

c 長所は自分をなかなか客観的に見る事は出来ないのによく分りませんが、昭和のスポ根世代なので意外と「打たれ強い」と思っています。

短所は面倒くさがり屋のところと思っています。

d 私自身にも言える事ですが、何事も「自分事」として仕事に取り組んで欲しいです。分からない事、未経験な事が多々あると思いますが、分からないなりに「自分だったらこうしたい、自分がお客だったらこうしてもらえたら喜ぶ」と常々意識し仕事をする事で成長出来ると思います。

■ 質問内容

- ① (生年・出身地)
- ② (出身校と経歴)
- ③ (家族構成)
- ④ (趣味)
- ⑤ a (モットーや信念/今後の抱負)
- b (当社に入社してから、一番印象に残っている仕事とその理由)
- c (長所と短所)
- d (若手社員へメッセージ)

第63期 太陽光発電状況(4ヶ所合計)

(発電所)

- 矢巾発電所(岩手)
- 鶴岡発電所(庄内)
- 会津坂下発電所(福島)
- 大田発電所(島根)

	総発電量(kWh)	計画総発電量(kWh)
R5 . 9月	43,755.5	42,700.9
10月	43,726.4	32,003.6
11月	25,052.9	17,406.7
12月	18,695.1	8,785.5
R6 . 1月	18,695.1	14,341.3
2月	33,359.9	24,538.6
3月	40,415.9	44,200.4
4月	57,202.2	52,744.1
5月	56,403.1	59,243.0
6月	60,544.9	51,315.7
7月	48,440.9	51,972.7
8月	42,961.0	55,167.2
合計	489,252.9	454,419.7

